

令状請求書によくある間違い

資料一 令状02

令状の種類等	該当箇所	内 容	備 考
各請求書共通	被疑罪名	被疑罪名と被疑事実の齟齬 (例)請求書には「窃盗」とあるが、被疑事実が記載されている別紙を見ると「住居侵入」または「建造物侵入」に該当する事実が記載されている。	警察に確認をし、その内容を裁判官に伝える。
	被疑罪名	★(例)請求書上は覚醒剤所持(同法41条の2第1項、19条)での請求であるが、被疑事実が記載されている別紙では覚醒剤使用(同法41条の〇)に該当する事実が記載されている。	
	(例)「教唆」、「帮助」、「未遂」の記載の欠落		
	被疑者氏名	同音異字、類似の漢字、字体が異なる次で請求書を作成している。	(例)「崎」と「崎」、「伊藤」と「伊東」、「李」と「季」など
	被疑者年齢	満年齢が誤っている。	身上関係を確認後、年齢早見表で必ず確認すること。
通常逮捕状請求書	被疑者の職業	(例)請求書上「不詳」だが、直近の供述調書には、「配管工」と記載されている。	直ちに警察に確認する。
	被疑者住居	地名、地番、マンション名、部屋番号の誤記	住民票等、身上関係書類で確認する。誤記であれば訂正せらる。
通常逮捕状、緊急逮捕状請求書共通	「引致すべき官公署又はその場所」欄	「又は」の部分を「及び」と誤記	警察に訂正してもららう。
緊急逮捕状請求書	被疑者が罪を犯したことを疑うに足りる相当な理由	書類の通し番号の間違い(番号が飛んでいる。)	(同上)
	被疑者の逮捕を必要とする事由	①別紙の場合の表題を「理由」とする誤り(本来は「事由」) ②被疑者の犯罪経歴の件数の数え間違い	(①については同上) (②については総括報告書で判明すれば裁判官に伝える。)
	被疑事実の要旨	①別紙の表題が「犯罪事実の要旨」、「犯罪事実」等と記載されている。 ★②犯行年月日時の誤記がある。 (例)「午前」と「午後」、「27」年と「26」年 ③「同人」が引用する人が誤っている。	正しく「被疑事実の要旨」と記載させる。 正しく訂正せらる。
緊急逮捕状請求書	逮捕年月日、引致年月日欄	引致場所等の記載が漏れている。	警察に記載させる。
捜索差押許可状請求書	差し押さるべき物	請求書の記載と、警察が持参した別紙の内容が異なっている。	直ちに警察に、どちらが正しいのか確認し、訂正等せらる。
	(夜間執行の場合)	通常、被疑者の着衣及び携行品、車両等には夜間執行をつけないので請求している。	削除せらる。
捜索差押許可状、差押許可状請求書共通	犯罪事実の要旨	「被疑事実の要旨」と誤記している。	正しく「犯罪事実の要旨」と記載させる。